

平和と民主主義の危機に私たちができること

▼1945年8月、広島と長崎に落とされた原爆は一瞬のうちに二つの街を廃墟に変え、21万におよぶ人々の命を奪いました。いまなお多くの被爆者が苦しんでいます。この悲劇をいかなる地にも繰り返してはなりません。核兵器の残虐性・非人道性を強く訴えます。

みなさん、今、日本は過去、例を見ないほどの平和と民主主義の危機にさらされています。思い出してください、2015年9月19日未明、「戦争法」が自民・公明の賛成多数で参議院本会議にて強行採決されたことを。今年の6月15日の朝、テロの脅威を口実に私たちの内心の自由を脅かす「共謀罪法」が強行採決されたことを。稀代の改憲論者である安倍首相とその周辺はいよいよ、平和と民主主義の根幹をなす憲法の明文改憲に突きすすもうとしています。こうした安倍政権の暴走に対しストップをかけるには、労働組合をはじめ、多くの心ある団体、市民が共同の力を強めていくほかありません。戦争法・共謀罪法を廃止すること、沖縄辺野古、高江の基地建設を阻むこと、そして何より明文改憲に「NO」をつきつけることは、国民を強権で物言わぬ存在にしておもうとする安倍政権に対する私たちの大いなる反撃となります。

労働組合は、働く者の雇用と生活、権利、自由と民主主義を守るために労働者が主体的に組織したものです。それらを守っていく大前提が「平和な国・世界」の実現であることは、思想、信条、宗教、国や民族を超えて一致できるものではないでしょうか。

テロや紛争、北朝鮮の挑発行為など「平和」とは相容れない事象が世界各地で起きていることも事実です。しかし、その解決を強大な武力の行使や核の傘に求めるのではなく、外交的手段による平和的なものに求めるのが人類の英知だと思います。

▼全損保は、結成当初から、「損保産業は平和産業」を胸に刻み、様々な「平和のとりくみ」を継続しておこなっています。本日も被爆地・広島に集い、学び、「平和の尊さ、核兵器廃絶の思いを次の世代につないでいこう」の思いを行動にうつしました。

厳しい職場状況の中、ややもすれば意識の外におきがちな、核廃絶のこと、憲法をめぐる問題、米軍基地や原発の問題などに対し、私たちひとり一人が「今、私にできることは何なのか？」と自身に問いかけ、行動に移す時です。

「今、声を上げないと間に合わないかもしれない」「孫、子の世代に禍根を残したくない」「とはいっても北朝鮮の核が・・・」などなど、さまざまな思いが去来していることだと思います。しかし、ともに悩み、考え、行動できるベースが全損保という労働組合にはあります。これからも「平和のとりくみ」に最大限の努力をしていくことを確認したい本集会のアピールとします。真の平和を求めてともに奮闘しましょう。

2017年8月5日